

# 栗橋宿西本陣跡

くりはししゆく  
にしほんじんあと

栗橋宿西本陣跡では、江戸時代の中頃から後半の町屋跡を調査しています。街道に面して建物跡が並び、裏庭には不用品を埋めた穴が多く見つかりました。当時の町家では、表と裏で土地が使い分けられていました。



ほうのうきだち  
奉納木太刀

刀身に「奉納不動明王」や「栗橋宿笹屋内文蔵」などと書かれています。当時の栗橋宿の住民が、お不動様（所在不詳）へ奉納したものと考えられます。

## 奉納木太刀とは？

しょうふくじよさい  
招福除災を祈願するため、寺社へ奉納した木製の太刀です。おおよませきぞんたいごんげん  
大山石尊大権現（現在の神奈川県伊勢原市阿夫利神社）への奉納が有名です。

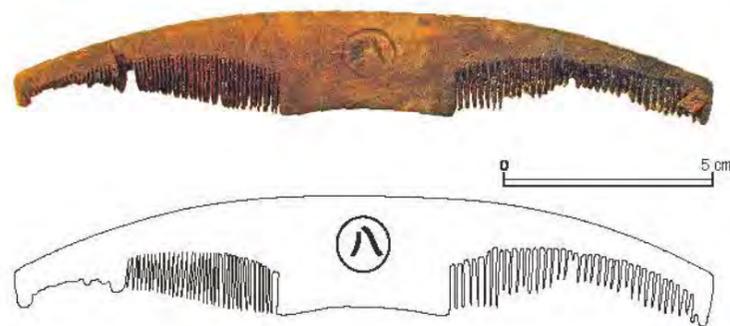


ひうちがま  
火打鎌

桶が井戸枠に再利用されています。この桶を支えた土の中から、火打鎌（着火具）が出土しました。水と火という相反する不思議な組み合わせには、願い事が込められたのかもしれません。

## ちよんまげ くし 丁髷を結った櫛

中央には歯がなく、左右の歯は細かさが異なります。中央の焼印「㊦」は、屋号や商標かもしれません。歯が摩耗した櫛をまとめて埋めていました。髪結い床屋が近くにあった証拠です。



平成 29 年度第 5 回遺跡見学会 平成 30 年 2 月 25 日（日）開催

# 久喜市栗橋

くり はし しゆく あと

# 栗橋宿跡

なつかしい  
くらしが  
ここにある



合の道

江戸時代に描かれた栗橋宿です。街道から利根川に向かう合の道は、栗橋宿跡第9地点で見つかりました。建物の屋根は、板葺き（茶色）と瓦葺き（灰色）に色分けされているようです。

Image:TNM Image Archives  
『日光道中分間延絵図』（東京国立博物館蔵）

公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団では、利根川の堤防強化対策事業に伴い、栗橋宿跡の発掘調査を平成 24 年度から実施しています。今年度は、栗橋宿西本陣跡と栗橋宿第 8 地点・第 9 地点の調査をしています。

栗橋宿は、日光道中（街道）の利根川を渡る手前の宿場町で、旅籠 25 軒が立ち並んでいました。江戸幕府は利根川の渡船場を元栗橋（現在の茨城県五霞町）から現在の栗橋へ移しました。宿場の整備は、慶長年間（1596～1615）から始められました。

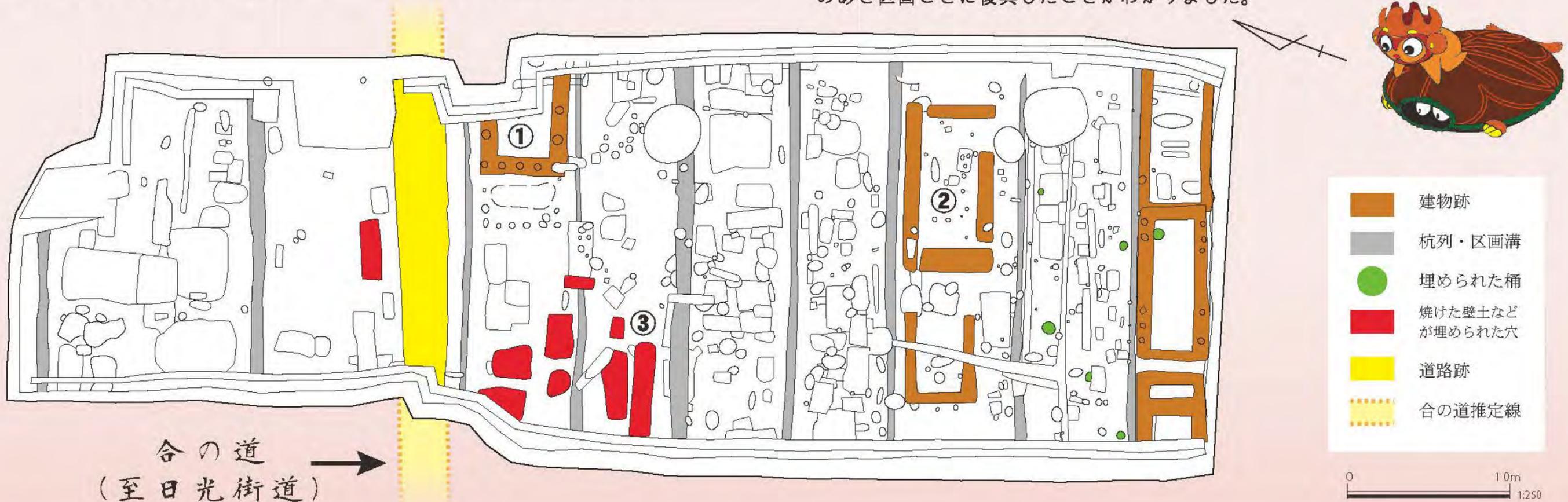
今回の調査では、杭列や溝で画された町屋の区割りとは様々な建物跡が見つかりました。陶磁器や漆椀などの日用品や、丁髷を結った櫛などの珍しい品が出土しました。このように、宿場町の屋並みや、どこか懐かしい暮らしの様子がわかってきました。

主催 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
共催 国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所  
埼玉県教育委員会・久喜市教育委員会



# 栗橋宿跡第9地点 くりはししゆくあと だい9ちてん

江戸時代末頃（第一面）の調査を行っています。杭列や溝に土地が区画され、建物跡がみられます。焼けた壁土や瓦が埋められた穴などが見つっています。火事の後と区画ごとに復興したことがわかりました。



合の道  
(至日光街道)

- 建物跡
- 杭列・区画溝
- 埋められた桶
- 焼けた壁土などが埋められた穴
- 道路跡
- 合の道推定線

0 1.0m  
1:250

## 建物を支えた技術

栗橋宿跡では、石を詰めたり、丸太を並べたりと様々な建物の基礎跡が見つかりました。入手できる材料を上手にいかし、さまざまな工夫をして建物を建てていた職人たちの知恵を知ることができます。



砂や石を詰め込んだ樽を並べた建物の基礎跡で、「樽地業」と呼ばれています。樽は土台の下に配置されています。江戸の技術が栗橋に伝わったことを示すまたとない資料です。



溝を掘り、溝の底に杭を打ち込み、その上に長い横木（土台）を渡します。柱の位置には、横木の上に石を置きます。長い横木で建物の荷重を分散させながら支えていました。



## 栗橋宿の火災の記憶



焼けた建物の壁土や瓦を埋めた穴が見つかりました。近くで起きた火災の後片付けが行われたようです。



建物の壁土は焼け落ち、黒かった屋根の瓦は赤く変色しました。火の勢いの強さがうかがわれます。